

地域のたから  
自慢の逸品

「仙台糰」

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道

芭蕉への贈り物

六月二〇日、国名勝「おくのほそ道の風景地」に、多賀城市の「末の松山」「興井」「壺碑」と、塩竈市の「籬が島」の四か所を指定することが文部科学大臣に答申されました。昨年指定された岩沼市の「武隈の松」と合わせて、県内では計五か所が国名勝「おくのほそ道の風景地」となるわけです。

芭蕉の旅の目的は、みちのくの歌枕を訪ねることにありました。なかでも芭蕉が最も期待したのは松島を訪れること、と言われています。その松島に至る仙台からの道筋には、今回指定された四か所の他にも、宮城野や榴ヶ岡など多くの歌枕が分布しています。仙台から松島に向かう数日間、「おくのほそ道」の旅のなかでも、特に密度の高い時間であったことは間違いないでしょう。

もう一つ、二十年ほど前から仙台に住んでいた先輩俳人の大淀三千風と会うことも、芭蕉の目的の一つだったと言われています。つまり、仙台こそは芭蕉の旅のメイン・イベントだったと言いうことができるようです。

芭蕉が仙台入りしたのは、元禄二(二六八九)年五月四日(太陽暦にすると六月二〇日)で、偶然にも今回の国名勝指定の答申日です。芭蕉は八日までの仙台滞在中、城下や宮城野近辺を回りましたが、その案内を務めたのは画工・嘉右衛門という人物でした。その嘉右衛門が、仙台を出発する

芭蕉に、草鞋二足と共に餞別として贈ったのが「ほし飯」でした。

道明寺の糰

嘉右衛門が芭蕉に贈った「ほし飯」は、米を原料とした保存食料で、旅や戦いの際の携行食料として、古くから広く利用されたものでした。その製法は、蒸したり炊いたりした飯を水でさらした後に天日乾燥するというもので、言ってみれば、アルファ化米の先輩格みたいなものです。

糰は、そのままでも食べることができですが、水やお湯に浸して食べるのが一般的でした。また、炒めたり、ゆでたりすることもありますが、あられや落雁の材料としても用いられました。桜餅に「道明寺」というものがありますが、これはもち米製の糰を粗く挽いた「道明寺粉」を用いたことからその名があるのです。その名前の由来となった道明寺は、現在の大府藤井寺市にあります。その付近は古くから糰の名産地として知られていたのですが、道明寺粉は菓子材料としても全国的に知られるブランドとなったのです。

忘れられた特産品

この糰に目を付けたのが、伊達政宗でした。政宗は蘆名氏の旧臣で政宗に仕えた

夏井藤兵衛ほか四人に道明寺糰の製法を学ばせ、禄を与えて仙台城下で糰を生産させたと伝えられています。立町の夏井家、国分町の白河家、木町の酒井家、新伝馬町の伊東家、小田原の松原家の五家がそれであったそうです。

仙台城下で作られた糰は、その白さが他の産地にならぬほどのもので、「仙台糰」の名前は全国に知られるものになっていきました。その詳しい製造方法は秘伝だったそうですが、藩では前述の五つの家にもち米を供給し、正月に精米したものが二月から三月にかけて糰に加工され、四月に選別されるという工程を踏んだそうです。なかでも上質のものは藩に納められ、さらに幕府や公家にも献上されました。また、中級以下のもは市中に販売され、駄菓子の材料などにも使われました。

嘉右衛門が芭蕉に贈った糰は、このように単なる道中の非常食料としての意味だけでなく、仙台の有名な土産品という意味合いもあつたのです。

全国に知られた仙台糰は、明治になって藩の保護を失い、また需要が低下したこともあつて、急速に衰退しました。唯一、製法を伝える

た夏井家での生産もとだえて久しくありません。今では、仙台駄菓子にわずかに、かつての名産品・仙台糰の面影が残るのみとなつてしまいました。



仙台糰を作った夏井家に伝わった印。仙台糰を入れる袋に「御糰所」の文字を捺すために用いられた(仙台市博物館所蔵)。

東日本大震災復興祈念特別展

むろ う じ 奈良・国宝 室生寺の仏たち

——「女人高野」から、癒しの「みほとけ」が東北初出陳

「十一面観音菩薩立像」、「釈迦如来坐像」の国宝2点、重要文化財24点を含む室生寺の寺宝93点が一堂に出展。この夏、仙台市博物館のみで開催。

平成26年7月4日(金)~8月24日(日)

開館時間:午前9時~午後4時45分(最終入館午後4時15分)

休館日:月曜日(7月21日は開館)、7月22日(火)

【観覧料】一般:1,400円 大学・高校生:1,100円 小・中学生:700円

■主催:大本山室生寺、「奈良・国宝室生寺の仏たち」実行委員会(仙台市博物館、日本経済新聞社、河北新報社、仙台放送) ■協賛:セコム、大伸社、日本製紙、社の都信用金庫

■協力:あいおいニッセイ同和損害保険、飛鳥園、金澤製作所、公益財団法人土門學記念館、善術商事、大光電機、ニコソイメージングジャパン

仙台市博物館 TEL:022-225-3074  
SENDAI CITY MUSEUM http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

掲載資料(左から):国宝 釈迦如来坐像(部分)、  
国宝 十一面観音菩薩立像(部分) いずれも室生寺蔵  
撮影:飛鳥園

